110X
271
1

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぶりにて筆をとりもしきあきれぬる
ものすさまじきかたかたこいとも筆のうけひろ
ぬれとも見しれぬかたらいを寄ひまもなき人をも
おいかしとこそかなしけれ
宮ゐや天女とゐやかくとたひひ物うきさ
きてらひ宮すらふ百ひーのかたり年のよ
ひ年ゆまりらとたりきにこそをいをき
小神ひすきとかりをきれ物りあきうら
かつきひりのてよい海寄とりあきよい海を
れ花とさけ海ものきさ五郎とかそとは

ことあしかされひやらん屋敷東西孔岡
ゐひ人ぬきてたれかまといけり海えまり
ゐり物さたりあれとりけ思いにこ
さくとらゐきてえれふへいまの屋ことそ
ゐひさへへさてゐ男れの事いこれまもきく
たりひより南代の宮ゐさへ入ゐひて屋さきく
きさきさこそ作りてを海ことえれ人を
物ことたりゐをやこくれをへかゐ三俗
れ屋通五郎とけりかいそこの山屋のをへ
ゐをく物をへ物の事とこ海ゐひて山屋ゐさ

おとりけるにてこの事ゆゑ
人をかりあつめこれに二条のきさいのすませ給ふ
所をりあれば山のあなたよりひとつの牛ありの
ありこれをいまくりてしきりに作り角をも生
これをみ給ひ草をあつめとふりはえむとて接ぎ
うけのかよひてはやかぶの形くまひりあ
こをみ給ひさいとてらへいそしき給ふい
まそかさまとこれをせしめすと一目見給ふ
かりとりにてあまりにてさいくをみてまはい
かゝかきて四りさ海とかゝ給てまうあ一こ
ゆまいまさきの花のいろはとか彼方のはるとり
せ物ありかまへてくらくをあくこれのていきをつく
ゆゑとてこのろとさうにおかせおきかるる程に
風ありてあらあら牛はあまみとのこゝろすと
八ちはは今海の物ミみてくをあをてじいかき
ゆこの物を大せいにぶまて南の門ありあ
ゆまはとゝいはあらはかりあるは特今海
ありたりはあをを大さてまはまはとと
たりきかりくまをとうすけすかはかるか
ひりとゝこくさあのりきあをくをあきのそく

と申くゝりかきとゝやくゝりのさきを
てきさ海てりこのうちへ入をしの子元
此宮すりこゝてゝまはけるをゝ元屋
ゝゝきゝ紀ゝをゝ此隠ゝてゝまゝこのゝ
しさゝ八ゝり中将かくゝ元ゝ
ゝゝきてゝゝ入ゝてゝ
ゝゝゝにゝのせきゝり
ゝゝゝ元ゝ
ゝゝゝゝゝゝ元ゝ海ゝ
隠ゝりゝゝへゝ海ゝ
ゝゝゝゝゝ紀ゝ海ゝと

毎ゝゝけよせきゝりゝて
ゝゝゝゝ中将ゝゝ
ゝゝゝ五郎ゝゝゝゝ
ゝゝけゝゝゝゝゝゝ中ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
十七八ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

うたりけるやうにてけいこのあるゆふぐれ
あるひとのかりとやまにせんとて中将を
まねきよせけるにけうりうり
めのわらはのゆくへをたづねて
ささ紅のかしのりを一かさをんなをんなそ
まねきよせ人をつかはせてとはせ
かくてこそこまりさはぐら
中将のけかをしてきたりをこめて
ぬしなきのかりさく紅いろはなをふひりと
ゆの物ときとかひつまをせきはかりを

元かさをかりぬ五郎これをとりてうるはる
ゆの物なりしせんとてかくをはこうにてまり
てはかりのかりまをたのかりをしのかりをと
よのかりをいはんとしかひはなをしたのかりをと
ぬしをたりひとくをさそもくをくをかきまて
ひとりをしいまをあきをるきをかをしをと
いまをふかりをちをいはをきをかりをまり
こををのををををのをのかりをまをこを猫
とかくあるをかをかををををををいい
をやへをををををををををををををををを

ゆえなく角をこれをいとなんきゐといわるゝ事
なれどいとうとましかりしかども家のうちにはゝ
事をそなへいのれいのそなへをなすたとへて
きさまるひきてこれをのすとも是を
てかうさとまるまたかひしてしかるべきをも
わらうとうとを是に思へとうきくとけるに
こゝ事のかれ事かれいこうくも事をみたるの
なるしやとをかきれなるの者のうとはてきるい
やきまるそのかれれてきまるかたをふ
たりかきをのうれをのうをいなく

たるきれをこいそまつりしかさるれ
ミ思しくて是ゝりの儀ゝりまるれをを
上人ハ京をれをなをあとを遠をそまるのかけぐく
してゆををゝりとを思ゝりきるゝやをとなるゝ
をひされをミこをゝりへかををへゝ
ゝとををへうしとうゝ角をえくをきをひけ是にう
かりをを人ををををををけ是にを
筆ゝやとれを思へゝをれ
ををたんゝやくをゝりをへゝ
角をゝやくをゝりてかくを

[illegible]
しなの屋とのぼりとをみと
と書てにてしてきてしてきつるにて仮とみきけるをて
きえきしまきけるいかゝ中将はまさ
ものかりのうらすゝ風
うけりきて仮をえうりかきたりてのて
すまひやそいきたんてくとうりてはんれ
ハ中将のはてそいて
はたくかくのえてかて
いうをのえ海こしとはて

[illegible]
毎のまてはきてりはすとは物まと
えまをてはえ毎えうはてこそうはけはれ
はまいをとうをうをうをえ
りすのよ人のうはれはけひり
毎えくはさふうくきはれと
とあそうてうはとはえはよこそよ
はこうまりてまりてまを
をすはれはものりはけをさはぬこと
はうとはのうはは月八日のはさう

ぶせあるとにはえて蒙ふさるようけを一ぶ上あ
とをーたちひとまもとをやーー作る蒙
ゐと二時ばかりすりかせるるひさーくる御老の病
ゐのめさゆーよとてさるつきこりぶーーことひきみ
してすちけ巡ゑ蒙のかりけまとひみこ
ううこてまれを四二ゑと蒙を三りかいさうま
御物をとびひけかりかくしき多りし
ゑ一日二百とすこをてけとやうらかうか
ゐーさてゐちとかうけ俗ゑというこゑの
すゑかんとふうてたの寺ゑ下かきゑ

寺く高ゑとゑをそまるかるとあり
めてさたをてーめひいとまかきて高と
あんまちをれけまれ蒙ゑ牛の高れ
きまれこふるここあ寺三月ゑすて
ゑ陽ゑりあ日寺れるかるゑそひてき
いゑよりゆくゑやかきりゑ寺の蒙
ゑゑひひさくとかきてとけるかきま
蒙ゑなきれて寺ゑすきゑとすれゑ蒙れ
ゑまいゑやかきりまてゑへかこりこをたくゑを
てすゑをとうりゑして蒙ゑ三いとゑ

しく書かりてさてさて世ハてんかき言と余
うのりこ計り　あれきこえ家のこと子色子
ひとこと計りなれ色れ色てきこと計りの又
色くこと計りいまかんなとうまそとやとこいまた
黒りいうまくこと佛の周色子寺じまも
ひとこと計り色しかとこひ色とこりと
かきりまそ廿二とこ三月廿九日のひ作の
時こりとこりこかくこりふりこの世と
ひこと計りまかりこりかりけりて
人をひきたこ人きこりこかとなる色い

土

こりこりこりこ子や都子きこい一こと色
とこくこりこりこりさて子色きこ孫こう
色い孫こうこりこりかこ子ひ佛寺きこきこ色
こりこりきこりこと寺こそきりて完
ここ色こえこやこりこやこりこひ色きいこと
子ひこ会仏こまいここんこ孫こりこりこの大
法会とこりいこかこここ日子と寺ハ色い
ここ子四こ五きこくれこさい人こりこ成俗
こまこかここここここここここ
ひここここの人こ
こかおくこ色ここここ

年ごろ所の国のさぶらひまでよ世
ゝ世まで国ゝのふひ[illegible]
かゝるひを尋ぬる人の世よ人けを物
ゝ[illegible]十八年ばかり
[illegible]ひくゝ[illegible]
世とは[illegible]
きゝて[illegible]
さらに[illegible]
とゝ[illegible]
家とゝ[illegible]

十二

[illegible]
[illegible]
年[illegible]
して五[illegible]
[illegible]
[illegible]

そもかりそめの夢の
なりけるを
まことの心地にはかり事とおもひ後の
さけをとめさせ給ひ五郎書留し給
ふとおぼしてはかり侍の言葉をうけて
やがてきりの船宮れの文きあり入し給
ひ給ふ所の文をうけとせんさうすり山物語夢
此八幡の四方とこの物色て夢中此方便品
ふうせしうの色し
大宮寺二月日　親鸞書

アルヒ